

わが国の主導によりシニアフォレスター会議が成功したのは、これまでに達成した国内の1,000万haという人工林の造林実績と、十数年にわたる海外林業協力を通じて林業専門家相互の信頼関係があったことによると考えられる。

今回の会議は、わが国にとっても貴重な財産となるものであり、今後わが国が熱帯林の保全と造成に向けて更にその取り組みを強化していく新たな第一歩となるものである。

シニアフォレスター会議及び関連行事の開催に当たっては、多くの方々、団体の皆様にご支援、ご協力を頂きました。紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

新刊紹介

◎西熱帯アフリカの森林昆虫学：ガーナの森林昆虫 (Michael R. WAGNER, S.K.N. ATUAHENE and J.R. COBBINAH; Forest Entomology in West Tropical Africa: Forest Insect of Ghana. 1991, pp. 210, Kluwer Academic Publishers, Dordrecht 約17,000円)

K.A. SPENCER 編による Series Entomologica の47巻で、学生、林業家むけに森林昆虫学のテキストとして発行されたものである。第1章にはガーナの森林昆虫学の歴史と森林および林業の概要が紹介され、第2章 食葉性害虫、第3章 吸取性害虫、第4章 生立木の穿孔性害虫、第5章 花・果実・種子害虫、第6章 生丸太の穿孔性害虫と乾材害虫、第7章 シロアリ、そして文献、用語解説で構成されており、最後にガーナにおける林木(現地名付記)、シロアリの記録種の一覧表が加えられている。第2章以下の害虫については主な数種の形態、生活史、被害、防除が記述され、それ以外のものは表にまとめられ、加害樹種や習性などのコメントがつけられている。

表題と価格から多くの種類が網羅され、豊富な付図をもち、これによってかなりの種類の同定ができるものと期待していたので、多少当て外れの感である。半世紀程度の研究実績しかない熱帯地域の森林昆虫学に、そのようなマニュアルを望む方が無理なのかもしれない。それはともかく2, 3冊しかない熱帯森林昆虫のマニュアルのなかで、本書は西アフリカ地域の森林昆虫学の重要な解説書であり、現地の林業従事者だけでなく他の地域の森林昆虫学者にとっても貴重な本である。

(野淵 輝)